生保２（問題）

【　第 Ⅰ 部　】

問題１．次の（１）～（６）の各問に答えなさい。

（１）～（４）各５点、（５）４点、（６）６点（計３０点）

（１）「生命保険会社の保険計理人の実務基準」に基づく剰余金の分配または契約者配当（以下、配当）の確認に関し、配当が公正・衡平であるための要件について、以下の（ａ）～（ｅ）の空欄に当てはまる適切な語句を記入しなさい。（５点）

（ア）責任準備金が適正に積み立てられ、かつ、会社の［　（ａ）　］のための必要額が準備されている状況において、［　（ｂ）　］が決定されていること

（イ）配当の割当・分配が、［　（ｃ）　］に応じて行われていること

（ウ）［　（ｂ）　］の計算および配当の割当・分配が、適正な保険数理および一般に公正妥当と認められる企業会計の基準等に基づき、かつ、法令、通達の規定および［　（ｄ）　］の契約条項に則っていること

（エ）配当の割当・分配が、［　（ｅ）　］の動向、市場金利の趨勢などから、保険契約者が期待するところを考慮したものであること

（２）生命保険会社の保険計理人の関与事項について、以下の（ａ）～（ｅ）の空欄に当てはまる適切な語句を記入しなさい。（５点）

生命保険会社の保険計理人の関与事項は、次に掲げるものに係る保険数理に関する事項である。

（ア）［　（ａ）　］の算出方法
（イ）責任準備金の算出方法
（ウ）契約者配当又は社員に対する剰余金の分配に係る算出方法
（エ）［　（ｂ）　］の算出方法
（オ）未収保険料の算出
（カ）［　（ｃ）　］の算出
（キ）［　（ｄ）　］に関する計画
（ク）［　（ｅ）　］等に関する規程の作成
（ケ）その他保険計理人がその職務を行うに際し必要な事項

（３）生命保険相互会社の準備金等に関する次の（ア）～（オ）の条件について、それぞれの条件に当てはまる準備金等を（Ａ）～（Ｇ）からすべて選択しなさい。なお、当てはまるものが１つもない場合は（Ｈ）のみを選択すること。
ただし、（Ａ）～（Ｇ）の各計上額はゼロではないものとする。（５点）

【条件】
（ア）貸借対照表の資産の部に計上されるもの
（イ）貸借対照表の負債の部に計上されるもの
（ウ）繰入額（積立額）が損益計算書上、特別損失に計上されるもの
（エ）任意積立金であるもの
（オ）残高の一部または全部がソルベンシー・マージン比率におけるソルベンシー・マージン総額に計上されうるもの

【準備金等】
（Ａ）危険準備金　（Ｂ）価格変動準備金　（Ｃ）基金
（Ｄ）基金償却積立金　（Ｅ）損失てん補準備金　（Ｆ）社員配当準備金
（Ｇ）社員配当平衡積立金　（Ｈ）該当なし

（４）生命保険会社のソルベンシー・マージン比率における「保険料積立金等余剰部分」および「負債性資本調達手段等」の計上額について説明した以下の文章について、（ａ）～（ｅ）の空欄に当てはまる適切な語句または数値を記入しなさい。なお、記載のない金額については考慮する必要はない。（５点）

（ア）保険料積立金等余剰部分とは、平成８年大蔵省告示第 50 号では、「保険料積立金及び未経過保険料の合計額」から、（ａ）式責任準備金又は解約返戻金相当額のいずれか大きい額及び追加責任準備金（保険計理人の１号収支分析等により、積み立てておくことが必要であると認められる額に限る）の合計額を控除した残額とされている。
次の数値例において、保険料積立金等余剰部分の額（（イ）①の算入限度を考慮する前の額）は（ｂ）百万円である。

【（ｂ）の数値例】

保険料積立金及び未経過保険料の合計額	100,000 百万円
うち追加責任準備金（保険計理人の１号収支分析により積み立てておくことが必要であると認められる額）	2,000 百万円
（ａ）式責任準備金	90,000 百万円
解約返戻金相当額	95,000 百万円
保険計理人の３号の２収支分析による、分析期間中の事業年度末に生じた事業継続基準に係る額の不足額の現価の最大値	2,400 百万円

（イ）負債性資本調達手段等は一定の条件を満たせばソルベンシー・マージン総額に算入できるが、条件を満たしたものが無制限に算入できる訳ではなく、いくつかの算入限度が設けられている。
①保険料積立金等余剰部分と負債性資本調達手段等（特定負債性資本調達手段を除く）の合計額に対して、（ｃ）が算入限度とされている。
②負債性資本調達手段等のうち、期限付劣後債務に対する算入限度が設けられている。次の数値例において、ソルベンシー・マージン総額に算入される期限付劣後債務の額を求めたい。なお、この計算においては①の算入限度への抵触はないものとする。
・期限付劣後債務に対する算入限度に抵触しない場合は、（ｄ）百万円である。
・（ｃ）の金額が 150,000 百万円の場合は、（ｅ）百万円である。

【（ｄ）および（ｅ）の数値例】

期限付劣後債務（契約時において償還期間が５年を超えるもの）（※）	100,000 百万円
うち残存期間４年超～５年以内	100,000 百万円

※過大なステップ・アップ金利はなく、（算入限度に抵触しない限りは）法令上算入が認められる負債性資本調達手段等に含まれるものとする。また、表中の金額はいずれも帳簿価額であり、残存期間が５年になった時点における帳簿価額と同じ金額である。

［解答の制限字数について］
・解答にあたっては、問題文（解答欄）に記載されている制限字数に留意すること。
・制限字数は解答字数の上限であって目安ではない。

（５）生命保険会社における有価証券の保有目的区分（名称のみ）を「その他有価証券」以外に４つ列挙しなさい（解答欄（ａ）～（ｄ））。（解答の制限字数はそれぞれ４０字）（４点）

［解答の制限字数について］
・解答にあたっては、問題文（解答欄）に記載されている制限字数に留意すること。
・制限字数は解答字数の上限であって目安ではない。

（６）生命保険会社の区分経理における運用資産の管理方式について、それぞれ名称を挙げ、簡潔に説明しなさい（３つ、解答欄（ａ）～（ｃ））。（解答の制限字数はそれぞれ１２０字）（６点）

問題２．次の（１）、（２）の各問に答えなさい。

各１０点（計２０点）

［解答の制限字数について］
・解答にあたっては、問題文（解答欄）に記載されている制限字数に留意すること。
・制限字数は解答字数の上限であって目安ではない。

（１）保険料の会計的特徴は生命保険会計の特殊性の大きな要因の１つである。収益としての保険料がもつ特徴的な側面を４つ挙げ、それぞれ簡潔に説明しなさい。（解答の制限字数は１，０００字）（１０点）

［解答の制限字数について］
・解答にあたっては、問題文（解答欄）に記載されている制限字数に留意すること。
・制限字数は解答字数の上限であって目安ではない。

（２）リスク管理における、リスクモデリングの限界とその対応方法について簡潔に説明しなさい。なお、リスクモデルの具体的な構築手法や構築過程について説明する必要はない。（解答の制限字数は１，０００字）（１０点）

【　第 Ⅱ 部　】

問題３．次の（１）、（２）の各問に答えなさい。

各２５点（計５０点）

［解答の制限字数について］
・解答にあたっては、問題文（解答欄）に記載されている制限字数に留意すること。
・制限字数は解答字数の上限であって目安ではない。

（１）生命保険会社における事業費の管理・分析について、次の（ア）～（ウ）の各問に答えなさい。（計２５点）

（ア）予定事業費枠の意義と役割について、簡潔に説明しなさい。（解答の制限字数は１，０００字）（４点）

（イ）商品別原価計算の目的および概要について、簡潔に説明しなさい。（解答の制限字数は１，０００字）（４点）

（ウ）あなたは次のような状況の生命保険会社のアクチュアリーである。

・会社設立からの経過年数が長く、営業職員を通じた保険販売を中心としている。
・保険料等収入および基礎利益は安定的に成長している。
・基礎利益の主な源泉は死差損益と利差損益であり、費差損益は低位に推移してきた。
・これまでは、事業費予算策定時において、過去の支出実績等をもとに翌年度の事業費支出額を見積り、予定事業費収入の見込額の範囲内となることを確認してきた。
・近年は非対面での営業・サービスの利便性を向上させるためのＩＴシステム投資などが増加しており、費差損益がマイナス（費差損）とならないための対応策を検討している。

また、長らくわが国のインフレ率はゼロ％前後で推移してきたが、足元の経済環境は緩やかなインフレ傾向への転換が見られる状況であるとする。
これらの状況を踏まえ、<u>事業費の管理・分析のあり方</u>についてアクチュアリーとして留意すべき事項を挙げ、所見を述べなさい。なお、解答にあたっては、次の観点を含めること。（解答の制限字数は３，５００字）（１７点）

Ａ．事業費および事業費効率を把握する際の一般論
Ｂ．さらなるインフレ率上昇の可能性を踏まえた留意点
Ｃ．経営政策上の留意点

［解答の制限字数について］
・解答にあたっては、問題文（解答欄）に記載されている制限字数に留意すること。
・制限字数は解答字数の上限であって目安ではない。

（２）生命保険会社のＡＬＭ（資産負債管理）について、次の（ア）～（ウ）の各問に答えなさい。（計２５点）

（ア）生命保険会社のＡＬＭにおいて対象となる市場リスクについて、ＩＡＩＳのＡＬＭ論点書に準拠すると４つのリスクが含まれるが、このうち「金利リスク」以外の３つを列挙し、それぞれ簡潔に説明しなさい。なお、ＡＬＭ論点書においては、市場リスクに「流動性リスク」は含めていない。（解答の制限字数は１，０００字）（３点）

（イ）流動性リスクについて簡潔に説明し、生命保険会社にとって流動性の問題を引き起こす潜在的な要因について列挙しなさい。（解答の制限字数は１，０００字）（５点）

（ウ）あなたは、個人向けの貯蓄性商品を主に販売する生命保険会社に所属するアクチュアリーである。長期金利は、これまで低下トレンドが 20 年程度継続したが、経済情勢の変化等により足元では上昇に転じており、今後もさらなる上昇の可能性がある。このとき、ＡＬＭを実施するうえで、アクチュアリーとして留意すべき点を挙げ、所見を述べなさい。なお、解答にあたっては、次の観点を含めること。（解答の制限字数は３，５００字）（１７点）

Ａ．考慮すべき保険契約者のオプション
Ｂ．今後の資産ポートフォリオ・運用方針
Ｃ．流動性の管理および、継続的なリスク管理の上で留意すべき事項

以　上